新学習指導要領の趣旨を踏まえた 小学校外国語活動・外国語の指導の充実に向けて

新学習指導要領の全面実施に向けて

新学習指導要領では、**各学校段階の学びを接続させる**とともに、**「外国語を使って何ができるようになるか」**を明確にするという観点から、目標の改善・充実が図られています。

○ 小学校中学年で、**音声面を中心とした**「外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力」を育成した上で、高学年において**「読むこと」、「書くこと」を加えた教科としての外国語科**を導入し、「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」を育成します。

○ **五つの領域**で英語の目標を設定し、小・中・高等学校で一貫した外国語の目標の実現を目指しています。

※ **「五つの領域」**とは、**「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと［やり取り］」、「話すこと［発表］」、「書くこと」**のことです。
外国語活動においては、これらのうち「聞くこと」、「話すこと［やり取り］」、［話すこと［発表］］の三つの領域を扱います。

新学習指導要領の全面実施に向け、本リーフレットでは新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導のポイントや学習評価、授業の充実に向けた学級担任・英語専科教員等と ALT 等の役割分担などについて紹介しています。

新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導のポイント

言語活動について理解する

○ **言語活動**とは、**「実際に英語を使用して、互いの考えや気持ちを伝え合う活動」**のことです。

○ 実際の授業においては、**ゴールとなる言語活動**を単元の中に適切に位置付け、**児童に明確に示します。**
言語活動は、児童が目標となる英語表現に**音声で十分慣れ親しんで**から行うとともに、「実際に英語を使用して、互いの考えや気持ちを伝え合う活動」となるよう留意します。

○ 言語活動の充実に向けて、「何のために伝え合うのか、どこで話しているのか、相手は誰なのか」といった、**コミュニケーションの目的や場面、状況など**を意識した活動を行うことが必要です。
児童が、学習した語彙や表現などを**実際のコミュニケーションにおいて思考・判断しながら活用する**ことができるよう工夫します。

小学校における文字指導について理解する

【中学年外国語活動】

○ 文字の「読み方」（「Ａ」を「エイ」と読む場合などの文字の名称）について、発音されるのを聞いた際にどの文字であるか分かるようにする等、**文字の「読み方」と「文字」を一致**させるようにします。

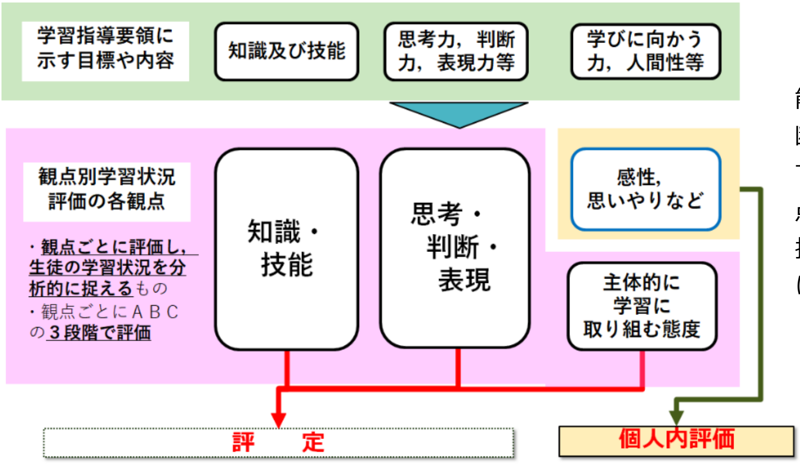
【高学年外国語】

○ 「書くこと」の指導においては、**音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現について、**「なぞる」、「書き写す」、「選んで書く」**などを行います。

○ 活字体の大文字、小文字を**四線上に正しく書く**ことができるようにします。

学習評価について

各教科における評価の基本構造



新学習指導要領では、目標及び内容が、資質・能力の三つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に整理されています。

「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校編）」
（文部科学省 国立教育政策研究所　令和元年６月）より

評価の観点及びその趣旨

<小学校　外国語活動>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。 ・日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

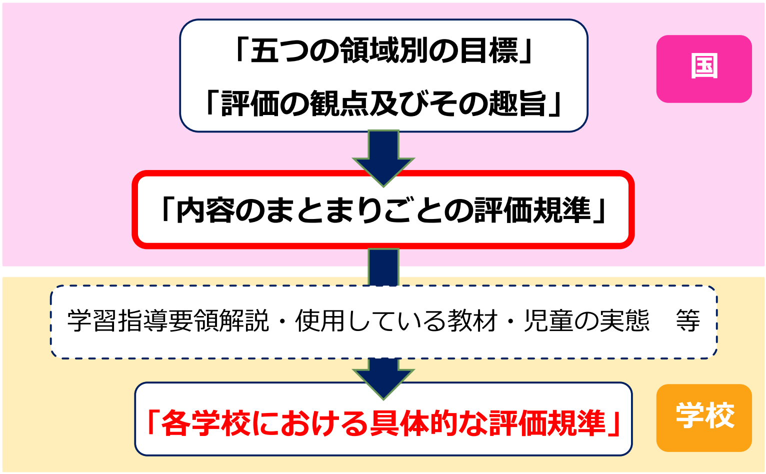
※　外国語活動の指導要録の記録については、「評価の観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述すること」とされています。

<小学校　外国語>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解している。 ・読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。 ・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」
別紙４（平成 31 年３月 29 日付 30 文科初第 1845 号）より

各学校における具体的な評価規準の設定



各学校における具体的な評価規準（学年ごとの評価規準・単元ごとの評価規準等）は、国が例示している**「内容のまとまりごとの評価規準」**を踏まえて設定します。外国語科においては、「内容のまとまり」は五つの領域のことを指しますので、「内容のまとまりごとの評価規準」は

５領域　×　３観点　＝　15 項目

となります。

なお、**各単元ごとに、全ての領域・観点（15 項目全て）について記録に残す評価を行う必要はない**とされています。（学年末に評価を総括し、指導要録に記載する際に全ての評価情報がそろっていればよい。）もちろん、各単元において３観点をバランスよく扱うことは重要です。

各単元の目標・評価規準の例（「話すこと［やり取り］」の場合）

○　単元目標の例（「We Can! 1」Unit 2　When is your birthday?　を用いた例）

相手のことをよく知るために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。

○　単元の評価規準の例（「話すこと［やり取り］」）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと［やり取り］	<知識> 月日の言い方や、I like/want ～. Do you like/want～?　What do you like/want?　When ～?　その答え方について理解している。 <技能> 知識を使って、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、I like/want ～. When is your birthday?　What do you like/want ～?　などを用いて、考えや気持ちを伝え合うために必要な技能を身に付けている。	相手をよく知るために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	相手をよく知るために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

「話すこと［やり取り］」における各観点の評価規準の基本的な形は、以下の通りです。

◆ **「知識・技能」について**（この観点では、<知識>と<技能>に分けて示されています。）

<知識>：「【言語材料】について理解している。」

<技能>：「【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】を伝え合う技能を身に付けている。」

◆ **「思考・判断・表現」について**

「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を伝え合っている。」

◆ **「主体的に学習に取り組む態度」について**

「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を伝え合おうとしている。」（「主体的に学習に取り組む態度」は「思考・判断・表現」と一体的に評価します。）

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）（案）」（国立教育政策研究所　令和元年11月）より

○　学習評価に関する留意事項

- 観点別の学習状況を記録に残すことについては、毎回の授業ではなく**原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごと**に、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その**場面を精選**します。
- 「思考・判断・表現」の観点については、**「コミュニケーションを行う目的、場面、状況など」を児童と共有**し、必ずそれらを設定した活動を通じて評価します。

外国語活動・外国語科の授業を充実させるための参考資料

①　「小学校第３・４学年外国語活動指導資料 DVD」（東京都教育委員会　平成 30 年３月）

②　「小学校第５・６学年外国語指導資料 DVD」（東京都教育委員会　令和元年７月）

③　「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」（文部科学省　平成 29 年６月）
※「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料」（東京都教育委員会　令和２年１月）の付属 CD-R にも収録

外部人材を活用した授業の充実に向けて

多くの学校で外国語活動・外国語授業に ALT 等の外部人材を活用して授業を行なっていることと思います。授業は学級担任・英語専科教員等が中心となって進めること、評価についても学級担任・英語専科教員等が責任をもって行うことを確認するとともに、改めてそれぞれの役割分担について確認していくことが必要です。

【参考】学級担任・英語専科教員等とＡＬＴ（Assistant Language Teacher）等の役割分担

学級担任・英語専科教員等	ＡＬＴ等
特性	
■　学習指導と生活指導の両面に配慮し、学級の児童の発達段階に応じた内容を設定できる。 ■　児童が安心感を覚え、リラックスして授業に臨むことができる。 ■　他教科等での学びを外国語学習に取り入れることができる。 ■　英語学習者の一人として、児童とともに英語を使い学ぶ存在である。	■　ネイティブ・スピーカーの発音を聞かせたり、母国の生活や文化等の情報を伝えたりすることができる。 ■　児童にとって、学んだ英語を実際に使えるコミュニケーションの相手である。
授業準備・授業前	
■　児童の実状、興味・関心と単元の題材に合ったコミュニケーション活動の設定をする。 ■　役割分担を示し、メインの活動と学習の流れについて打ち合わせをする。	■　学級担任の考えたコミュニケーション活動に必要な単語や表現を準備する。 ■　単元に関連して提示できる自国の文化等を紹介する素材を準備する。
授業中	
■　児童の理解の様子をよく観察しながら授業を進める。 ■　ＡＬＴ等とともに活動の仕方を示す。 ■　児童の日本語によるつぶやきや気付きを拾い、ＡＬＴ等に易しい英語で言わせる。 ■　ＡＬＴ等の発言を繰り返させて児童に聞かせたり、スピードを変えさせたりし、児童に英語を聞かせる。 ■　評価について分担して行い、振り返りの活動では、児童の活動の様子について情意面で気付いたことをほめる。 ○　授業のコーディネーター ・　「児童の言いたいことを引き出す」「英語で言えないことを代弁する」など、児童の学習をサポートする。 ・　児童の反応を見て、ＡＬＴの発言を止め、繰り返させたり、ゆっくり言わせたりするなど、ＡＬＴ等と児童をつなぐ。 ○　授業をデザインする。 ・　児童の発達段階に応じた内容、他教科等と関連させるなど、児童の興味・関心を生かした活動を考える。	■　学級担任等とともに、活動の仕方を示す。 ■　単元に合った自国の文化や生活等について紹介し、児童とインタラクションしながら、お互いの国の様子やＡＬＴ等自身について知ってもらう。 ■　児童のつぶやきや気付きを、児童から直接、または、学級担任等を介して受け取り、易しい英語やジェスチャーを使って分かり易く示す。 ■　ネイティブ・スピーカーの正しい発音を繰り返し聞かせる。 ■　学習した英語を使って児童と会話する。 ■　振り返りの活動では、児童の活動の様子について技能面を中心にほめる。 ○　コミュニケーションの相手 ・　実際に英語を使う体験 ・　外国の人に直接触れる体験 ○　ネイティブ・スピーカーとしての英語力 ・　生きた英語によるインプット ・　発音のモデル
授業後	
■　指導についての評価を行い、改善方法について話し合う。 ■　児童の学習状況について、気付いたことや発見したことを共有する。	

「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」（文部科学省　平成 29 年６月）より作成

※　ALT 等とのやり取りに活用できる「基本英会話」（授業内での会話例、打合せ等で用いられる会話例等）についても、「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」（文部科学省　平成 29 年６月）に多数掲載されています。

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた小学校外国語活動・外国語の指導の充実に向けて」
作成　東京都教育庁指導部義務教育指導課　令和２年２月
〒163-8001　東京都新宿区西新宿 2-8-1　℡ 03-5320-6841